



国土交通省

# NEWS RELEASE

国土交通省 近畿運輸局

問い合わせ先

(所属) 海事振興部船員労政課

(担当) 土本、濱下

(電話) 06-6949-6435

令和6年7月22日

## ～ 内航船員の確保・育成対策 ～

工業高校の生徒及び教諭等を対象に海技大学校練習船「海技丸」船内見学会および校内見学会を実施しました！

内航海運は、日本経済を支える重要な産業です。これを支える内航船員は、業界全体として若年層が増加傾向にあるものの、いまだ約半数が50歳以上となるなど高齢化は著しく、大量離職に伴う担い手不足が生じないように十分な数の若年船員の確保が必要とされています。

これを受け、国土交通省では、内航船員の確保育成施策を推進しており、近畿運輸局においては、若年船員の確保に向けて各種の事業を実施しています。

今般、工業高校の生徒及び教諭を対象に、機関部の船員の確保や育成に重点を置いて、海技大学校の協力を得て練習船「海技丸」での船内見学会および校内見学会を実施しましたので、お知らせいたします。

実施日： 令和6年7月15日（月・祝） 10時00分～15時00分

場 所： 海技大学校（兵庫県芦屋市）

参加者： 工業高校の生徒及び教諭等 計 23名

### 【主なカリキュラム】

- 船内見学会 練習船「海技丸」
- 校内見学会 操船シミュレータ体験、機関室シミュレータ体験、船用ディーゼル機関

主催： 近畿運輸局、神戸運輸監理部、近畿内航船員対策協議会、  
神戸地区内航船員確保対策協議会、（公社）近畿海事広報協会、  
（公社）神戸海事広報協会

協力： 海技大学校



「C to Sea プロジェクト」  
海と船がもっと楽しく身近になる情報発信中！！

海と船のポータルサイト「海ココ」開設 →



配布先：海運関係業界プレス

## 工業高校の生徒及び教諭等を対象に 海技大学校練習船「海技丸」での船内見学会および校内見学会 を実施しました！

近畿運輸局、神戸運輸監理部、近畿内航船員対策協議会（会長：山本一人 三興海運（株）代表取締役会長）、神戸地区内航船員確保対策協議会、近畿海事広報協会、神戸海事広報協会および海技大学校は、令和6年7月15日（月・祝）、海技大学校練習船「海技丸（かいぎまる）」において、工業高校の生徒及び教諭等を対象とした船内見学会を実施するとともに、海技大学校の校内見学会を開催しました。

本企画は、内航海運業界において特に機関部の船員の不足が顕著となっていることを受け、内燃機関等の学習をしている工業高校の生徒に対し、内航海運の全体像を紹介し、学んだ技術を活かす場として「機関士」という職業の存在を伝えることにより、船員教育機関への進学や内航船員を職業選択肢の一つとしてもらうことを目的として実施しております。

当日は、大阪府と兵庫県の工業高校から23名（生徒20名、教諭等3名）が参加しました。



まず開講式では、近畿運輸局海事振興部船員労政課の土本課長から「船員の少子高齢化が進む中で、今回の船内見学会および校内見学会を通じて、海の魅力や船員の仕事を知らせてもらえることができれば、大変うれしく思います」との挨拶があり、見学会はスタートしました。

午前の部では、3班に分かれての海技大学校の校内見学会とし、各地の港を再現したシミュレータ室での操船を体験する「操船シミュレータ」、ディーゼル船の機関室を模擬したシミュレータ室での操作、確認、トラブル対応等を体験する「機関室シミュレータ体験」、および校内実習棟に設けられた4サイクルディーゼル機関の運転操作を体験する「船用大型ディーゼル機関の運転操作」を、海技大学校の教員からの説明を受けながら受講しました。



はじめて目にするシミュレータを前に、参加者は高い関心を持ったようで、シミュレータを用いた体験では、班員同士でコミュニケーションをとりながら、非常に和気藹々とした様子で協力しつつ、実習に参加していたことが印象的でした。

各体験を通じて、職務別の役割や、作業内容、使用する機器や用具について学び、細部に至るまで見学していました。



午後の部では、全員で練習船「海技丸」に移動し、「海技丸」での船内見学会を実施しました。

最初に、船長から海技丸に関する説明を受け、その後は3班に分かれて船内見学、船橋説明、機関室説明を実施しました。

普段は入ることができない機関室に入ってディーゼル機関を間近で見てもらうなど参加者を飽きさせない工夫を凝らした甲斐もあり、約1時間の船内見学はあっという間に過ぎていきました。

船内見学後、船内でそのまま閉講式となり、海技大学校の杉田航海科長から「今回の見学会を機に、船員という仕事に理解を深めていただければ幸いです」との挨拶をもって、校内見学会および船内見学会は終了となりました。



見学会終了後のアンケート結果において、生徒からは「日本にとって海運が大切なものだと分かった」「船のことを今まで知る機会がなかったが、たくさん知ることが出来て興味が持てた」などの回答があり、生徒に海運の重要性について理解を深め、海や船に興味を持ってもらえたと思います。

また、その他の回答においても、今回の見学会の実施によって、「船員の皆さんの話を聞いて船員の仕事が楽しそうだった」「船員は休みが長く、給与が高いという話を聞いて良いなと思った」「船員の仕事は大変そうだと思うが、とてもカッコいい仕事だと思った」など、船員という職業自体に前向きな印象を抱いた生徒が多く、船員を職業の選択肢として考えるきっかけになったものと思われます。教諭の方からも、「短時間でしたが生徒たちがとても興味の持てる内容だった」との評価をいただきました。

近畿運輸局、神戸運輸監理部、近畿内航船員対策協議会、神戸地区内航船員確保対策協議会、近畿海事広報協会および神戸海事広報協会では、逼迫する内航船員不足問題や船員の育成に対処するため、工業高校生への働きかけも含め、引き続き活動を強化していきたいと考えています。

(近畿運輸局 海事振興部 船員労政課)